

**東久留米市都市計画マスタープラン中間見直し市民検討委員会（第3回）
議事録（要旨） および 主な指摘と対応**

1 開催日時

日時：平成 22 年 10 月 20 日（水） 午後 2：00～4：30

場所：庁議室（東久留米市役所 4 階）

2 出席状況

■出席委員：13名（欠席2名）

委員長	小 泉 秀 樹	東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 准教授
副委員長	桑 原 芳 夫	前東久留米市都市計画審議会 会長
委員	梅 本 富 士 子	東久留米市自治会連合会 会長
委員	木 村 久	東久留米市農業委員会 農業委員
委員	豊 福 正 己	東久留米市市民環境会議 座長
委員	則 竹 浩 二	東久留米市商工会 副会長
委員	本 間 弘 之	防災まちづくりの会・東久留米 世話人
委員	三 沢 よ つ 子	東久留米市立小中学校PTA連合会 副会長
委員	大 森 興 治	公募市民
委員	久 保 田 幸 子	公募市民
委員	小 山 実	公募市民
委員	田 中 直 子	公募市民
委員	渡 辺 め ぐ み	公募市民

■市：都市建設部長、都市計画課（事務局）4名

■コンサルタント：2名

3. 議事録（要点記録）

■議事録について

- ・ 前回の議事録については了承されたと理解する。（委員長）

■懇談会実施報告について

- ・ 委員にあつては、懇談会に参加いただき感謝する。また、声かけにも感謝する。懇談会において、どういう意見がどこで出たかを。今後地図に落とす。なお、資料については報告事項として了解を頂いたということにする。（委員長）

■テーマの内容について

- ・ テーマについては当初、検討のための期間などの制約を考慮し、5つにしたが、この検討委員会や懇談会を通じて様々な意見があったため、洗い直しをして8つにした。防災や、市外からもってきたい施設、内発型振興などに関する意見があった。（委員長）
- ・ テーマについての議論の回数をどうするか、議論して頂きたい。（委員長）
- ・ 現行都市マスができて10年経過したが、これまでどういう問題点があったのか説明して欲しい。（委員）
- ・ 資料7で、現行都市マスについては、各所管がやってきたこと（行政として何を実施したか）と市民がどう感じているかを整理している。例えば自転車走行空間の整備について、市民満足度は低く、所管も困難な状況であると認識している。（事務局）
- ・ アンケートはどのように実施したのか。（委員）
- ・ 昨年度市民3000人を対象に行ったもので、その結果は第1回委員会の資料9として配布している。各項目に対する市民の評価を数値化しグラフ化してお示ししている。（事務局）
- ・ 行政として。特にこれが課題なので、議論してほしいというものはあるか。（委員）
- ・ それぞれの所管課で課題がある。例えば道路では、用地確保への市民協力の件やある程度の幅員のものとない補助金が見込めないといった財政の面、市民参加でないと実現できないことも多くある。（事務局）
- ・ アンケート結果において、市民評価はアウトカムとして重要であるが、地域別に議論を整理しないといけない。例えば、現行都市マスの84ページに重点的取り組みがあるが、立野川の親水化は、誰がどういう方法で対応していくのかなど、どこまでを考えるのかを明確にしないと議論できない。総合計画でこういつていて、都市マスではこう扱っていて、実際はこうでといったつながりから見ていけないといけない。そもそも東久留米市の都市マスの5W1Hはどうなのか、まちづくりのしくみづくりまで考えていくのか？そこまで考えないと、しくみづくりは決められない。（委員）
- ・ それについては、庁内各課とキャッチボールしながら進めていきたい。（事務局）
- ・ 行政だけではなく、市民側の活動の機会を保証することが重要であり、それは協働のまちづくりの話になる。自分たちで実施したいため、市民の活動をオーソライズして欲しいという意見が懇談会から出ている。こうした市民やグループとの接点を考えていく必要がある。（委員長）
- ・ 評価については、事業実施が伴うため、積み重ねで行った方が良いのではなか。（委員）

- ・今ここでは、東久留米市にとって、何を大きなテーマとするかを確定させたい。現行都市マスには方針を具体的に記載してあるところと、中身があまりないところがあるため、見直しをする必要があるが、検討のベースにはなる。(委員長)
- ・都市マスのおりにこれまで各課は行ってきたのか、各課に確認して頂きたい。市民に都市マスは知らされていたのか?市民はあまり知らないのではないのか。(委員)
- ・資料7に一部が記載されているが、今後適宜示されていくことになる。都市マスが市民に身近なものになっていないことについては、今回の見直しでも意識して、PR、周知のしかたや意見のいただき方などを検討し、情報がよく届くように工夫したい。(委員長)
- ・行政枠から出てくるもの以外に市民がやっていることもある。市民がやっていることも把握することが望ましいが、実際は難しい。行政のやったことをベースにやるしかないと思う。(委員)
- ・マスタープランは方針であり、空間計画である。空間的にどういうことをどう守るかといったベースとしてのもので、用途地域や条例などに入れ込んで規制・誘導する。このため具体的につくり変える時に、つまり開発など何かアクションを起こしたときに初めて効力を発揮するものである。直感でよいので、深掘りしないで、この8テーマで良いかをうかがいたい。(委員長)
- ・10年後を見通して、いま何が重要かを取り上げるべきだ。(委員)
- ・マスタープランは10年、20年スパンの計画で、こうしたいという思いで描かれるべきもの。検証も必要だが、それはアクションプランである実施計画の中で検証するのが本来ではないか。思いである大きな方向性が示されて、1つ1つよりも全体の方向性を定めることが必要。実施計画の段階でお金と結びつくが、基本計画ではそこまでいかない。(委員)
- ・どのようにやるのか。やろうとしている方向が良かったのか悪かったのかを議論するためには、検証しないと課題は見えない、方向性を出すには、今まで何をやってきたのかを調べる必要がある。(委員)
- ・長いスパンの計画なので、今はできないけど、社会状況を踏まえ、財政的に余裕が出来たら実施するようなものも、方向性としてはあっても良いのではないか。(委員)
- ・委員お二方の意見は同じようなニュアンスだ。ただし、実施計画につなぐことまで意識しつつ、プログラムを立てていきたい。(委員長)
- ・テーマは5つより、この8つで良いと思う。なお評価については、市民アンケート結果や懇談会の意見などがあり、評価は出ていると思う。この8項目で1つ1つの検討に入っていた方がよい。なおテーマ5番のタイトルには「安心して」を加えた方が良いのではないか。(副委員長)
- ・5番は、「地域で安心して住み続けられるまちづくり」とするのも良いかもしれない。タイトルのワーディング(文言表現)については変えられる余地はあると思うが、地域の中で暮らすという事について検討をしたい。(委員長)

■テーマの検討回数について

- ・テーマの検討回数はどうするか。来年度の6月にはパブリックコメントを募集するという予定となっている。今年度内に個別テーマについては検討を終了させる必要がある。どうやっ

て進めるか。(委員長)

- ・ 8つテーマを年度内で実施するとすると、計算上は3週間に1回の開催となる。(事務局)
- ・ テーマ別検討については、委員によって関心のあるテーマと関心の低いテーマがあるだろうから、ワーキングを設置して行うという方法がある。そうではなくて、原則全員ボランティアで参加し議論し、不足する課題についてはメーリングリストでもって意見交換するとう方法もある。(委員長)
- ・ 各委員にあっては余裕の時間があると思えない。(副委員長)
- ・ 関心のあるテーマについて挙手を願いたい。(委員長)

①水とみどり…8人、②団地…2人、③道路…3人、④安心…8人、⑤災害…6人

⑥CO2…3人、⑦資源…7人、⑧しくみ…5人 (各委員の挙手の数)

- ・ 一度欠席すると、前の話が見えなくなってしまい、続かないのでは。(委員)
- ・ 検討委員会の開催については、定足数の問題もあるため、オフィシャルな会議を一定数設定することが一方で必要だ。(事務局)
- ・ 具体的な方法は、検討委員会を開催し、その中で考えることにする。(委員長)
- ・ 職員が残業にならないようにすべきだ。(委員)
- ・ 行政職員が普通にやっていたら、都市マスはできない。(委員長)
- ・ テーマ8つについて、8回分の開催日時を設定する。

①水とみどり…11月17日17時～

②団地…11月24日14時30分～

③道路…12月15日14時～

④安心…1月11日14時～

⑤災害…1月25日14時～

⑥CO2…2月21日14時～

⑦資源…2月28日17時～

⑧しくみ…3月18日14時～

■各委員の懇談会に参加した感想

- ・ 最後の方はかなりスムーズに進行した。各回においては時間が少なく消化不良の部分もあった。課題を出すまで位で、その先の方法論までの議論が少なかった。(副委員長)
- ・ 時間は少なかった。マンパワーや会場の都合があり、うまくできない面もあった。すべての懇談会で延長したが、あと30～40分あったら良かったと思われる。(委員長)
- ・ 声かけをして出席してもらったが、「参加して良かった」という声があった。参加することの大切さを感じた。(委員)
- ・ 課題だけでなく、具体的な提案や生活者としてのアイデアが出ていて、うれしかった。懇談会に出席することは意識を高める大きな手段だった。これから参加をどう拡げるか、意見をどう掘り起こせるかが重要だ。(委員)
- ・ 事前に資料を渡したのが良かった。一方で「資料は不足している」という意見もあった。(委員長)

- ・喘息に関する意見も出た。（委員）
- ・地域センターには駐車場がほとんどないので、会場を考えてもらいたい。（委員）
- ・地域ごとに対応した意見も出た。今後のレスポンスを望む。（委員）
- ・懇談会参加者へのレスポンスについては、パブリックコメントの前に行うか。また、今フォーラムを考えており、そこに出席してもらって対応するという方法もある。（委員長）
- ・若い人の参加があつて良かった。意見を聞き出したのはコンサルタントであつたが、コンサルタントは東久留米市に住んではおらず聞き出すのは無理だと思った。行政職員が行った方が良かったのではないか。また、検討に関わりをもちたいと思っている人が何人もいた。（委員）
- ・名札に居住年を記載することになっていたが、若い人の参加割合はどうだったのか。（委員）
- ・年齢は把握していない。男女別は男性54人、女性41人であつた。居住地別出席者は、資料2の記載の通りである。（事務局）
- ・懇談会参加者に簡単なアンケートを実施すれば良かったと思った。次年度の懇談会で実施したい。（委員長）
- ・居住年は、今の場所ではなく、東久留米市内での居住年を聞くのが良かったかも知れない。（委員）
- ・懇談会に出席した人は思いがあつた分、消化不良はあつたと思う。まちづくりのために寄付をしたいという声もあつた。それを実践できるような仕組みが重要ではないか。（委員）
- ・都市マスで実践する仕組みと、都市マス以外で実践する仕組みの2つがある。（委員長）
- ・市議会の中で、時間が短くコンサルタント主導によって意見をまとめられてしまったとの市民意見があつた旨の指摘があつた。（事務局）

■懇談会参加者の関わりについて

- ・懇談会において、「地域別の指針づくり」を自分たちで考えたいという声があつた。それは西部地域に関するものであつたが、どうせやるのなら全市的に実施したらどうか。（委員長）
- ・タウンミーティングが地域ごとに開催されているが、これとの重なりはどうか。（委員）
- ・今後のタウンミーティングの開催は未定である。（事務局）
- ・検討会において案がまとまった段階で、示していくという方法が考えられるが、郵送はコスト負担となるため、電子メールによる送信ができればと考えている。フォーラム開催のお知らせもメールで行えれば良いと思っている。（委員長）
- ・地域別の指針づくりは、それぞれが検討してもらい、次年度予定している地域別のワークショップの際に提案されたら良いと思う。（委員長）

■その他

- ・今回の懇談会においては、お礼を広報すべきではないか。（委員）
- ・広報でのお礼や参加者への直接の感謝の発信については、事務局で検討願いたい。（委員長）

- ・全国湧水フォーラムが12月17日の午後に開催される。また、11月17日に一斉川掃除が開催される。来年度に東久留米市が湧水都市宣言を行う予定である。（委員）

以上

東久留米市都市計画マスタープラン 中間見直し市民検討委員会（第3回）
主な指摘と対応

主な意見	対 応
(1) テーマの内容について	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現行都市マス策定後に出てきた問題点について説明を願いたい。 ・ これまで、都市マスのおり各課が行ってきたのかの確認が必要。 ・ 評価については、事業実施が伴うため、積み重ねで行う方がよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度に市民評価、所管課の進捗把握と課題の認識をもとに検証を行い、本日の資料9でお示ししている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域別に個々の事業を取り上げ、誰がどういう方法で対応していくのか、それぞれの事業等の総合計画・都市マスとのつながりはどうなっているのかを踏まえないと議論できない。まちづくりのしくみまで考えていくのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業については、庁内各課とキャッチボールしながら検討を進める。 ・ 市民の活動機会の保証や協働のまちづくりも、テーマとなろう。 (委員長)
<ul style="list-style-type: none"> ・ マスタープランは、長期のスパンでこうしたいという思いが描かれるべきもの。個々の検証は実施計画で行うのが本来。1つ1つよりも全体の方向性を定めることが必要。 ・ やろうとしている方向性が、「良かったのか悪かったのか」を議論するには、検証が必要。 ・ 今はできなくても、今後の状況で実施するようなものもあった方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施計画につなぐことまで意識しつつ、プログラムを立てていきたい。(委員長)
<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマは懇談会前の5つより、今回提案の8つでよい。テーマ5のタイトルに「安心して」を加えては？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本日お示しした8テーマで検討する。 ・ テーマ5のタイトルは、「安心して住み続けられるまちづくり」とする。
(2) テーマの検討回数について	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 8テーマを年度内で検討するとなると、計算上は3週間に1回の開催となる。 ・ 委員の関心に応じて、委員会とは別にワーキングを設定する、関心のあるテーマにだけご出席いただくなどの対応も考えられる。 ・ 一度欠席すると、話が見えなくなってしまう、続かないのでは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民委員会には定足数の規定があるため、オフィシャルな委員会も一定数開催する必要がある。 ・ やり方は、検討委員会を開催しつつ、考える。

(3)懇談会参加者の関わりについて	
・懇談会で、「地域別の指針」を自分たちで考えたいという声があった。	・まとまった段階で、検討会案を電子メールで渡し、意見を交わすなども考えられる。
(4)その他	
・懇談会のお礼を広報すべき。	・ホームページの懇談会実施報告の項目にお礼の文章を掲載済。次回の地域懇談会のPRも兼ねて、参加者にはお礼の手紙を送付する事を検討中。